

平成28年度

横浜市立高等学校
及び
南高等学校附属中学校

第三者評価結果

横浜市教育委員会
高校教育課

< 目 次 >

I 「横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校」学校評価の体系……………	1
II 平成28年度第三者評価について……………	2
1 実施概要	
2 評価者及び訪問調査校	
III 訪問調査校の評価……………	3
1 戸塚高校……………	4
2 東高校……………	10
3 横浜商業高校……………	17

I 「横浜市立高等学校及び南高等学校附属中学校」 学校評価の体系

市立高校及び附属中学校は、学校評価の基本である全教職員による自己評価と保護者や地域、その他学校関係者等による学校関係者評価を行うとともに、年間3～4校に対し教育活動その他の学校運営について外部の専門家等による第三者評価を行います。

市立高校及び附属中学校 学校評価は、次の手順で実施します。

1 自己評価

各学校は、校内評価委員会を組織します。校内評価委員会は、教職員による学校評価、生徒による学校評価、授業評価、保護者及び地域による学校評価を組織的に行い、評価結果の分析により課題を明らかにするとともに、学校関係者評価の結果を踏まえ、重点課題の改善策を中心に「自己評価書」を作成します。

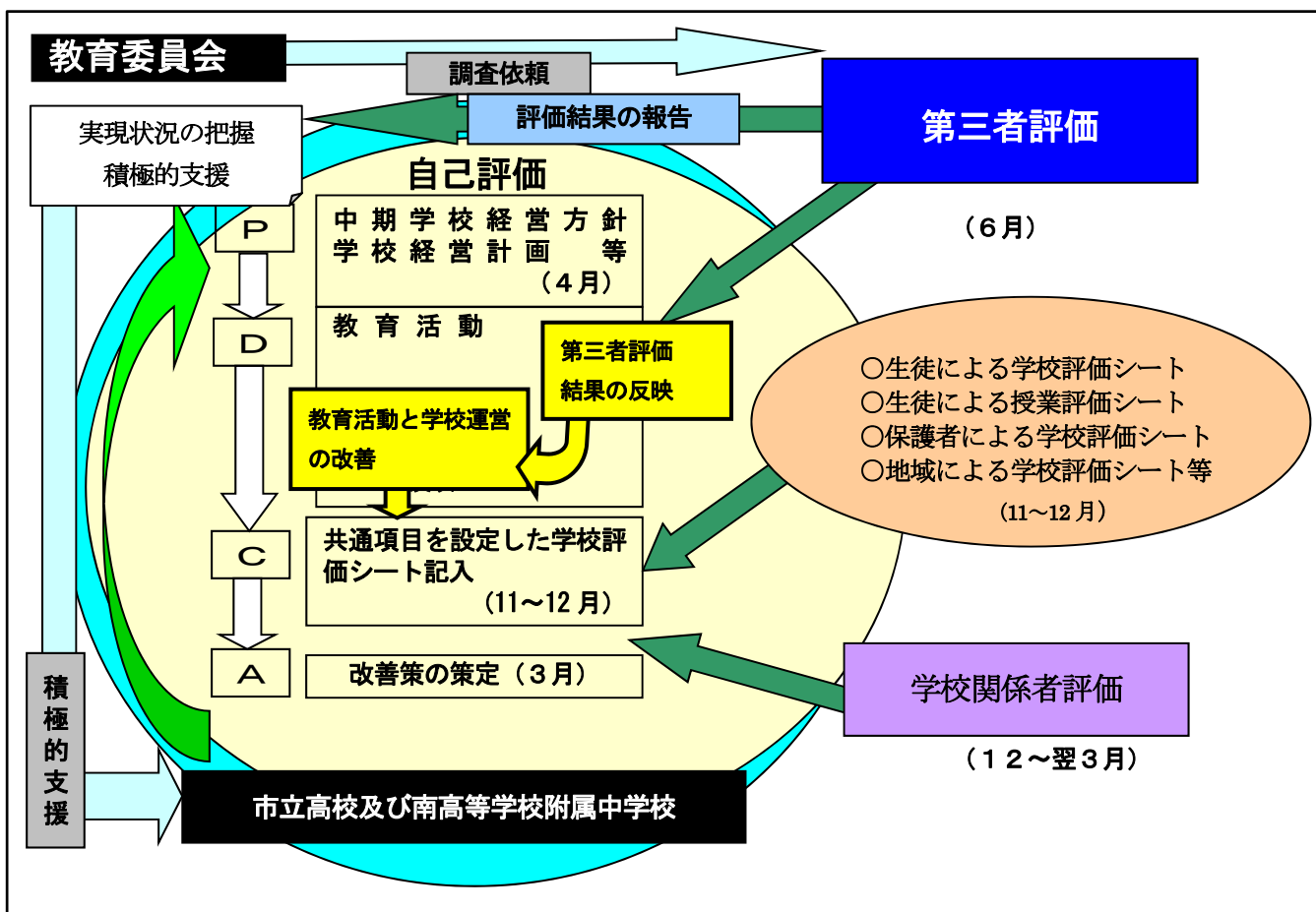
2 学校関係者評価

各学校は、学校関係者評価を実施するため、生徒の保護者や地域、その他学校関係者等によって構成される学校関係者評価委員会を組織します。学校関係者評価委員会は、各学校でまとめた評価の結果等を活用するとともに、授業や学校行事等の教育活動を観察し、「学校関係者評価書」を作成します。

3 第三者評価

教育委員会は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による第三者評価者（以下「第三者評価者」という。）に調査を依頼します。第三者評価者は、教育活動その他の学校運営について、年間3～4校の訪問調査を行います。調査結果は教育委員会が取りまとめます。

＜市立高校及び附属中学校 学校評価の体系図＞



II 平成 28 年度第三者評価について

1 実施概要

(1) 実施方法

- ① 1校につき3名の評価者が訪問します。（横浜商業高校は評価者の都合により2名）
- ② 評価者は、27年度の「自己評価書」「学校関係者評価書」及び28年度「学校経営計画」について主に重点取組項目を中心に校長から説明を受けた後、授業参観、施設・設備の観察、教職員（校長・副校長・教務主任等）及び在校生からのヒアリング等を通して評価します。
- ③ 教育委員会は、評価者からの評価と講評をとりまとめ、第三者評価結果を作成し、公表します。

(2) 訪問調査校及び日程

ア 訪問調査校

戸塚高校、東高校、横浜商業高校

イ 実施日程

6月7日：戸塚高校

6月10日：東高校

6月28日：横浜商業高校

(3) 活用

ア 学校は、評価結果を教育活動及び学校運営の改善に反映させます。

イ 教育委員会は、各学校の教育環境の改善に向けた必要な措置などの施策に生かします。

2 評価者及び訪問調査校（五十音順）

評価者氏名	所 属 等	訪問調査校
生田 麻実	横浜市 PTA 連絡協議会 会長	戸塚高校
岩谷 伸一	岩谷学園 学園長	東高校
植田 みどり	国立教育政策研究所 総括研究官	戸塚高校
大村 眞理子	横浜市立軽井沢中学校 校長	戸塚高校
落合 優	横浜創英大学 教授	東高校
小松 郁夫	流通経済大学 教授	横浜商業高校
諏訪部 真史	横浜市立谷本中学校 校長	東高校
樋口 眞砂子	横浜市 PTA 連絡協議会 会計	横浜商業高校

※所属等は調査時のものです。

Ⅲ 訪問調査校の評価



戸塚高校の概要

創 立：昭和3年
住 所：横浜市戸塚区汲沢2-27-1
課 程等：単位制による全日制の課程
普通科（一般コース・音楽コース）
クラス数：24クラス
生 徒 数：948名（平成28年4月1日現在）
学 校 長：長田 正剛



東高校の概要

創 立：昭和38年
住 所：横浜市鶴見区馬場3-5-1
課 程等：単位制による全日制の課程
普通科
クラス数：21クラス
生 徒 数：830名（平成28年4月1日現在）
学 校 長：星野 浩



横浜商業高校の概要

創 立：明治15年
住 所：横浜市南区南太田2-30-1
課 程等：全日制の課程
商業に関する学科（商業科・スポーツマネジメント科）
国際学科
クラス数：21クラス
生 徒 数：832名（平成28年4月1日現在）
学 校 長：富地 正博

横浜市立戸塚高等学校

(1) 第2期横浜市教育振興基本計画（施策6 魅力ある高校教育の推進）の進捗状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
「次代を担うグローバル人材の育成」のための取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない
「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない
「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」のための取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない

所見

【グローバル人材の育成】

- ・グローバル人材の育成を目指し、生徒一人ひとりの能力の伸長を目指している点については、生徒の自発的な家庭学習の時間の拡大を図るための学校全体での取組、部活動との調整、保護者の協力など今後のさらなる取組の充実を期待したい。
- ・実用英語技能検定2級以上取得者の目標値達成のための取組を続けていただきたい。
- ・取組目標の中に「国内における外国人との文化交流イベントを年30回以上実施」とあり、対象や内容などの充実を今後も続けていただきたい。

【特色ある高校づくり】

- ・同校の特色である音楽コースにおいては、管理職や音楽コースはじめ教職員集団の努力により、3学年が揃い概ね安定してきているといえる。全国コンクールでも優秀な成績を取るなど成果も上げてきているが、今年度卒業生を出すことで本来の目的を達成できたかどうか判断できるといえる。
- ・音楽コースの連携大学が増加しており、戸塚高校の特色である音楽コースの充実が図られている。音楽科教員が授業に専念できるよう、外部指導者に対するコーディネートを行う職員の配置があるとさらに戸塚高校の音楽分野が充実すると思う。
- ・地域周辺との連携事業数が40を超えることは、教職員の理解と協力、および地域や近隣小中学校との密な連携があつてなされるものである。しかし個人ベースでの関係ではなく、学校全体で組織的に取り組むことが今後の継続性の上では重要である。

【生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実】

- ・大学進学者数に伸びが見られ、生徒の能力を伸ばす取組が行われていることがうかがえる。

(2) 教育活動の状況

①各教科等の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
教科指導	生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせた学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか	A	A	A	学校の目標達成に向け、教科指導が改善され、授業力が大幅に向上している
		B	B	B	学校の目標達成に向けた教科指導や授業力向上の取組が行われ、授業力が向上している
		C	C	C	複数の教科で教科指導の課題が指摘されているが、授業改善の取組があまり行われていない

所見

【教科指導】

- ・教科指導の方法が、講義形式だけでなくグループ学習を取り入れている様子があり、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の育成に寄与している。全教科で生徒同士が自分の考えを伝えあったり、発表したりする授業形態を積極的に取り入れてほしい。
- ・各教科で「考える授業や言語活動を重視した授業」を意識的に展開していることに教職員が肯定的で、成果を上げている。
- ・各教科で大半の教職員が工夫した授業を行っているとして自己評価している。組織的に授業力の向上に努めている。「アクティブ・ラーニング」による活発な授業が行われている。反面、試験の結果に出にくい（何が出にくいかが不明）など生徒の自己評価に繋がらないという課題もある。家庭学習の記録を管理するなど、よりきめ細かい指導に期待する。
- ・教育課程が生徒の状況に合わせ、目的に応じた学習系列の提示や習熟度別指導など工夫されている。
- ・授業参観の際に、授業で使用しているプリントがない生徒がそのままの状態で行っていたのは非常に残念であった

【研究・研修】

- ・外部試験や外部組織の力を借りながら、学力データの分析を行い、個に応じた指導の充実を図る取組をしている。家庭学習の状況把握を行う学年もあるなど、特色ある取組も出始めている。今後は学校全体で取組を共有しながら、組織的に取り組んでいくことが重要である。
教員が自発的研修に取組、教授活動の質的向上を図ろうとしている点は評価できる。今後はそれらを組織的に学校全体で取組、教育実践の変容とその結果としての学力向上というところまで結びつけていくようにすることを期待したい。
- ・授業をほかの教職員が参観している状況があり、互いの授業力を高めようという意欲が感じられた。

【家庭学習】

- ・学校評価の中で「家庭学習時間の不足」について述べられているが、調査方法を「家庭」に限らず学校の

自習室等の利用を含めるなど「授業」や「塾」以外の学習時間が把握できるのではないかと。また、授業の中で学力をしっかりとつけさせ、家庭では趣味などに時間を使うといった人間的な素養を高めるといった考えもある。家庭での学習時間で学力をつけるというより「学校の授業時間で学力向上を図る」意識もほしい。

②生徒の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
生徒指導 教育相談	生徒の生活習慣の確立及び規範意識の形成に向けて教職員一丸となって取り組んでいるか	A	A	A	すべての教育活動を通じた豊かな人間関係づくりや関係機関との連携及び問題行動の未然防止や規範意識を醸成する取組が充実している
		B	B	B	生活習慣・規範意識等の改善に向けた取組の効果が表れている
		C	C	C	生活習慣・規範意識等の改善に向けた取組があまり行われていない
進路指導	進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか	A	A	A	どの生徒も進路の高い目標を設定し、自ら目標達成に向けた進路計画の立案や実践を行っている
		B	B	B	生徒は学校からの進路情報を十分に理解し、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる
		C	C	C	進路指導に対して不安を訴える生徒が大勢いるにもかかわらず、進路指導の改善があまり行われていない

所見

【生徒指導・教育相談】

- ・保護者の求める生徒像の把握を行い、家庭と協力して生活習慣や規範意識の醸成により一層取り組むことを期待する。
- ・継続した登下校指導が成果を上げており、教職員の地道な活動が生徒に良い影響を与えている。
- ・登下校の指導に力を入れているが、アンケートからは地域の学校に対する理解が乏しいように見受けられる。住宅街に隣接した学校であるだけに地域の活動に貢献するなど、近隣との連携を図ることは早急な課題と感じる。
- ・登下校時の指導も徹底され、また学校内での規律も徹底されており、落ち着いた学習環境が保障されている点は評価できる。これは教職員が一丸となって生徒指導に取り組んだ成果と言える。

【進路指導】

- ・生徒が1年次から計画的に自らの進路に向けた情報収集や取組ができるよう、生徒各自の資料の保存方法などを工夫して学校の取組を意識させたい。
- ・進路指導については積極的な印象。生徒・保護者とも満足度が高い。定期テスト・模試の結果がデータ管理され閲覧できるのはありがたい。現役合格の人数からは一概に測れないが成果の表れと感じられる。
- ・進路指導については、特に、音楽コースの特殊性を鑑みた対応への配慮がなされ、研修なども実施している点は評価できる。またキャリア教育についても外部の専門家の知見も活用しながら、充実を図ろうとしている点は評価できる。今後はその研修内容を具体的な進路指導において活用していくことを期待したい。

- ・学力診断テスト等のデータ分析を教職員が活用できるよう環境整備したことは個々に応じた指導や生徒集団の実態に応じた指導の支援になる。
- ・音楽コースの進路についても全教職員が研修を受けるなど、生徒の進路指導を全体で取り組もうとする姿勢がある。

(3) 学校経営の状況

①学校の管理運営等の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
組織運営 及び 教職員研修	教職員が意欲的に業務に取り組める組織であるか。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	A	A	A	情報共有が徹底され、様々な問題に対して迅速に対処している協力関係がある。また、学校は常に教職員の研鑽に努めている
		B	B	B	一人ひとりの教職員は意欲的に業務に取り組んでいる。また、様々な研修によって教職員の力量が向上している
		C	C	C	教職員組織の見直しが滞っている。また、教職員の力量向上のための研修があまり行われていない

所見

【組織運営】

- ・教職員の雰囲気が良い。生徒は素直な印象を受ける。組織力を感じる。各種委員会、各分掌の共通理解に努めている。担当者任せ、孤立しない組織的な情報管理をお願いしたい。
- ・職員組織図を他校のものも参考にしながら修正をし、より組織を意識した取組の展開を期待したい。

【教職員研修】

- ・教員が自主的に研修に取り組んだり、意欲ある教員が授業研究などに積極的に取り組んでいることは評価できる。今後はそれらの良い実践が学校全体で共有され、組織的な教員の資質能力の向上の取組につながることを期待したい。
- ・音楽科系進学に向けての研修をはじめとした研修体制や学年経営・職員会議等などについて肯定的にとらえられており、力量向上の一助になっている。
- ・研修体制についての肯定評価が13ポイント以上伸びたという状況は評価できる。研修体制は整備されてきているが、教職員の「一人ひとりが意欲を持って業務に取り組むことができる体制になっている」についての肯定的な回答が73%であることから、教職員の相互理解やさらなる組織の検討を行い各教職員が「組織として動いている」実感を持てる工夫があると良い。

②保護者・地域等との連携協力の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
保護者・地域等との連携協力	学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか	A	A	A	保護者及び地域には常に教育活動の情報提供が行われ、円滑な協力関係が築かれている
		B	B	B	保護者及び地域に教育活動についての理解が得られ、連携協力して学校が運営されている
		C	C	C	保護者及び地域に教育活動について情報提供があまり行われず、連携に大きな課題がある

所見

【保護者との連携】

- 保護者が積極的に学校行事に参加している様子。「まち」とともに歩む学校づくり懇話会は、年1回3月に行われるようだが、PTAにとって3月は入れ替わりの時期で次年度に引き継ぐには時期が適切か疑問。
- 保護者連携が多く場面で行われており、学校の教育活動への協力体制がある。
- 保護者に学校発出の資料がなかなか届かない状況があるという現状は非常に残念である。保護者へ連絡書類を渡すことは幼いころから指導されている事項であり、高校生になっても生徒指導の延長と考え繰り返し指導をしていく必要がある。

【地域との連携】

- 小中と違い地域との連携が薄い中、様々な努力がされている。ただ地域貢献度に繋がらないのは、同様の事業に件数が多いためか。集約して教職員・生徒の負担を軽減し効率化を図っても良いかと思う。
- 地域活動にも積極的に参加し、近隣の小中学校との連携も出来ている。この点は評価できる。今後は、個人的なつながりでの活動ではなく、学校全体で組織的に取り組むことが継続性を担保する上でも重要なことであるので、学校全体で組織的に取り組んでいく仕組みの構築を期待したい。
- 地域への部活動を主とした連携が盛んで特に小中学校との連携は、児童生徒にとって進路のひとつである「高校」への目標設定にも効果がある。

(4) 総合所見

【経営力】

- ・管理職は、学校の現状を質的及び量的なデータ等での確に把握し、課題認識を共有できている。そして強いリーダーシップのもとで、音楽コースという新しいコースの立ち上げから現在に至るまで様々な課題を乗り越えながら、ここまで落ち着いた状態に持ってこられている経営力は評価できる。今後は、立ち上げの段階から、持続性や継続性を意識した取組の充実という第2フェーズに入っていくことが求められる時期と言えるので、現在の活動の継続性や持続性を意識した活動を、学校全体で組織的に取り組むためのシステムづくりを期待したい。そのため、若手等の人材育成に取り組んでいることは評価できる。今後はその成果が出ることを期待したい。

【施設】

- ・校舎改築後 20 年たつが、清掃等美化に努められており、環境整備がなされている。教育環境は生徒の学習や心理に影響するので、この状況を維持してほしい。
- ・新しい合奏室等が完成し、そこを使用している生徒が非常に礼儀正しく丁寧で誇りをもっていることを感じた。

【非常時の対応】

- ・生徒の「災害時の避難経路」の認知度が低いので避難経路の掲示や避難訓練などで発災に備える必要がある。

【音楽コース】

- ・音楽コースは、全国コンクールでも優秀な成績を収めるなど、着実に成果を上げてきていると言える。音楽コースの成果やそこで培われたものを普通コースにも反映させ、音楽コースと普通コース共に成果を上げていくような、学校全体の成果の普及、反映を期待したい。
音楽コースの充実の基盤として、様々な新しいことに取り組んできたことがある。また外部の専門家や大学との連携協力の成果でもある。これらのコーディネートを教員自身が行っていることは教員の負担感となっていると言える。現状では、成果を上げる基盤となっているかもしれないが、今後の継続的で持続的な発展を考えると、教員個人の能力や努力に依存するのは危険である。組織的に取り組めるような人材の配置等の検討が必要である。
- ・「個人ではなかなか師事できない指導者」によるレッスンは、指導者・生徒ともに貴重な機会となっている。この制度をより良いものにしていくために、音大受験を含めて、一人ひとりに合った教科指導・進路指導が求められている。
- ・吹奏楽部の成績を向上する目的だけではなく、一般コースの吹奏楽部員も平等に演奏活動を楽しめる環境であればいいと思う。
- ・音楽コースで音楽大学への進学だけでなく、他の分野の進学もできることは「コース」の良さである。ただ、「公立高校」で音楽コースの生徒が市民の税金で専門家に個人または少人数の専門的な技術レッスンを受けたにもかかわらず音楽の道に進まないという選択をしても費用対効果があると明言できるようにしておく必要を感じる。同様に、県内全域を学区としていることも、他の県内全域を学区としている市立高校とともに学区外定員 8%、30%でない説明ができると良いと感じる。(横浜市立大学は授業料等が横浜市内と市外とは異なる。)

横浜市立東高等学校

(1) 第2期横浜市教育振興基本計画（施策6 魅力ある高校教育の推進）の進捗状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
「次代を担うグローバル人材の育成」のための取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない
「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない
「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」のための取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない

所見

【グローバル人材の育成】

- ・従来より力を注いできた「国際理解教育」を、英語力を重視した入学試験の導入や英語コミュニケーション、英語表現の各学年での必修配置、各学年10名の受け入れ枠がある海外帰国生徒や留学生との交流（異文化交流会）の促進などにより、さらに活発化させている。また、ESD（持続可能な開発のための教育：Education for Sustainable Development）の視点に立った教育を教科・領域で取り入れている。さらには、ユネスコスクール加盟を視野に入れた視察や研修、UNIS-UN 世界学生会議向け研修会（TCS 研修会：Thinking & Communication Skills）の開催など意欲的な取組を展開して、成果を上げてきている。
- ・入試の英語点数を1.5倍にして英語力が高い生徒を集めていること、留学生・帰国生を受け入れ、彼らの資質を活かした異文化発表会を実施していることなど、英語教育に力を注ぎ、学校特色を色濃く打ち出している。これが【次世代を担うグローバル人材の育成】という横浜市の方針と合致し、教育目標・進路に統一感をもたらしている。
- ・英語教育を柱に、学校経営の中で「グローバル化」「国際化」を多く発信している。教職員はもとより生徒も保護者も自然に意識を高めるものと思われる。

【特色ある学校づくり】

- ・授業見学では、旧来の英語の授業ではなく、リスニングやスピーキングを主体とする授業が実施されていて、生徒の興味がわき、英会話ができるようになるのではと感じさせるものになっている。
- ・以前より重視してきた学習活動の充実、特別活動・部活動の推進の2本柱をさらに明確化し、その充実に向けた取組を進めている。学習活動に関しては、基礎学力を身につけた後に選択の幅を拓げていくことを基本とする教育課程を編成し、自主的・主体的な履修計画の支援、授業方法や教材にかかわる研修の実施などを積極的に行っている。指導計画や指導内容・指導方法、評価方法に関わる生徒の評価も高い。特別

活動・部活動については、体育祭、東高祭などの学校行事、各部活動への教職員、保護者による支援を積極的に行っている。部活動への入部率も高く、90%を超えており、多くの部が、良好な活動結果を上げている。

- ・多くの市立高校では積極的に取り組んでいる姿がうかがえる。東高校でも ESD（持続可能な開発のための教育）の研究推進、ユネスコスクール加盟に向けての取組等、今後の成果に期待する。

【生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の推進】

- ・教員と生徒との関係性が良く、個人面談や進路ガイダンスを通して、生徒一人ひとりに丁寧な指導を行っている様子が見える。なお、これをもっと進化させるためには、生徒一人ひとりの様々な情報を収集しデータベース化（教育用のカルテ）し、それを教員全員で共有するとともに、生徒指導方法等に教員の知恵を集め、チームとして役割分担して指導に当たると良い。
- ・生徒の主体的な履修計画作成や意欲的な学習活動のため、授業ガイドを作成し、年度ごとにその内容の改善を行っている。履修指導に当たっては、生徒一人ひとりの特徴に応じて、1年次～3年次までをとおして、進路との関係も視野に入れた支援を行っている。進路指導については、進路ガイダンスを各学年で実施し、また、個々の生徒の学習状況と希望進路との関係性についても、情報提供や指導を行っている。
- ・「生徒一人ひとりの能力を生かす」最大の教育環境は、一人ひとりの先生方の存在だと思う。生徒会生徒のインタビューからは、先生方への信頼と尊敬がとても強く感じられた。是非、一人ひとりの先生方がそんな生徒の熱い思いを受け止めて頂ければ、きっとこれからも素晴らしい東高校が続くものと思われる。

（２）教育活動の状況

①各教科等の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
教科指導	生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせた学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか	A	A	A	学校の目標達成に向け、教科指導が改善され、授業力が大幅に向上している
		B	B	B	学校の目標達成に向けた教科指導や授業力向上の取組が行われ、授業力が向上している
		C	C	C	複数の教科で教科指導の課題が指摘されているが、授業改善の取組があまり行われていない
特別活動 部活動	生徒は主体的・自立的な活動を行い、学校は活動の活性化に努めているか	A	A	A	生徒会活動への関心が高く、学校内外で積極的に活動している。90%以上の生徒は部活動に加入し、勉強と部活動を両立している
		B	B	B	生徒会活動及び部活動が学校教育目標の実現に向けて大きな効果があると判断できる
		C	C	C	多くの生徒は生徒会活動及び部活動に対してあまり意欲的に取り組んでいない

所見

【教科指導】

- ・より専門性が高まる高校では、教科によって生徒が感じる難易度が違ってくると思う。その中で生徒の関心や意欲を高めていく、授業の工夫がきっと大変な事なのだと思う。見学させて頂いた授業では、それぞれの先生方が工夫をして授業をされていた。国語での寸劇、英語での映画を教材としたリスニング、情報での先生作成のドリル等それぞれの教科の特性を上手に生かし、生徒達が少しでも興味を持てるような工

夫がされていた。高校のダイナミックさを感じた。

- ・生徒による授業評価では、多くの項目で「満足」と評価されている。特に項目「先生は、生徒に学力を身につけさせようと、授業に熱心にとりくんでいる」に高評価をされている点は、学力向上に向けて東高校教職員の高い意欲の表れである。
- ・授業評価集計では、多くの科目についての評価は高いが、いくつか解決すべき項目が見られるので下記に記載する。これらについては、原因を探るとともに、全員が解決策に知恵を絞り、チームとして改善策を模索すべきであろう。
 - ①低い評価の項目が複数見られる科目がある。
 - ②「予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組む」項目ではどの科目でも評価が低い。
- ・1・2年次に共通履修科目を多く配置し、基礎・基本となる学力を身につけ、2年次、特に3年次には、生徒一人ひとりの多様な進路希望に対応できる選択科目を配置するという教育課程に基づいた指導が行われている。「授業ガイド」（学習方法とシラバスを内容とした生徒と保護者のための資料）を活用して、生徒の履修計画作成と明確化を支援している。数学や選択科目では、少人数クラス編成とし、個々の生徒に応じた指導が可能となるよう配慮がなされている。授業改善プログラムに基づいた研究授業を実施し、多くの教科で、授業方法の改善や教材の開発・改善が行われ、意欲的な教科指導が展開されている。授業に対する生徒の意欲はおおむね高く、与えられた課題に取り組む朝学習に参加する生徒もいる。しかしながら、とりわけ一部の基礎的科目などで、学習にかかわる自己評価が低い生徒も存在する。学習習慣については、予習や復習などの家庭学習について、十分あると考える生徒の割合が必ずしも高くない傾向が見られる。これについては、上述の朝学習や空き時間における個人やグループでの学習（自学自習）も視野に入れ、実態を把握することが必要であろう。
- ・英語教育の推進を柱に、学校全体で系統立ててカリキュラム編成がされている。授業も熱心に受ける生徒、先生と温かな交流をしながら展開されている姿を拝見し雰囲気の良さを感じた。

【特別活動】

- ・特別活動は、従来より学校を特徴付ける大きな柱の1つであり、伝統的に盛んに行われてきている。体育祭や東高祭に関する生徒の意識は全校的に高く、とりわけ企画運営にかかわる生徒の姿勢は、意欲的、積極的であり、また、年度ごとに課題を見出し、次年度に解決を図ろうと取り組んでいる。これら行事は、基本的には生徒の主体的活動であるが、教職員やPTAによる支援（PTA 便り「ひがし」による情報発信など）も行われている。
- ・生徒会本部役員の皆さんとお話をさせて頂いた。皆さんから「東高校が大好き」という思いをとっても強く感じた。自分たちが参画して学校をつくっているプライド、行事でも苦労しながらも成功に導く事ができた達成感、仲間とのつながりや信頼関係の醸成等を実感しているようだ。まさに日頃から東高校が生徒の主体性を学校生活の中で大切にしている成果と感じた。
- ・生徒会本部役員の皆さんの話から「東高校の生徒は、やさしい」「先生方が授業で熱心に教えてくれる」「中学校は先生のルールに乗っている感じだったが、高校は自分たちの意見で運営できる」等とても学校生活を満喫し、まさに青春している姿がうかがえる。担当されている先生方のご指導も多くの時間をかけてじっくり生徒を育てていることと推察する。先生方の姿勢に敬意を表す。

【部活動】

- ・部活動へは約90%の生徒が参加し、とても活性化している。大会等へも出場し成果も出ており、部活動間でも試合観戦等で助け合いが行われている。学校訪問中すれ違うほとんどの生徒が挨拶を交わしてくれ、対応の良さ、意識の高さが目についた。

- ・部活動については、入部率が90%を超え、競技成績など良好な活動成績を上げている部も多い。また、特定の限定された活動（サッカー部でサッカーをするなど）ばかりでなく、地域での子どもへの指導、地域行事への参加、美化活動への参加など、部としての地域協力も盛んに行われている。
- ・サッカー部やチアダンス部が優秀な成績を収めている。高校で上位の成績を収めるための努力は並大抵ではないと推察する。ご指導いただいている先生方に敬意を表する。また、それを多くの生徒が誇りにしている様子もうかがえた。学校の元気は、生徒の頑張る姿が基盤になるのだと思う。部活同士でお互いを応援しあっている姿も校長先生からお聞きし、心優しい青年が育っていることをとても嬉しく思った。

【教育環境の整備】

- ・下記の教育環境の整備がなされていることは特筆すべきことである。これからも続けて、より良い教育の実現を目指してほしい。
 - ① どのような人を育成するのか（横浜市教育振興基本計画や東高等学校の教育理念等に記載）、そのためのカリキュラム（教育課程）、それを担保するシラバス（授業ガイド）、実際に各授業等を各担当者が展開するためのレッスンプランといった、目標とする教育を科学的・論理的に展開するための教育のシステムが存在していること。
 - ② 育成する能力等を各科目でどのように対応すべきかを授業ガイド（評価の観点）で示し、教育目標達成を各科目で役割分担し協力できるようになっていること。
 - ③ 学校の教育の質を保証する授業ガイドを教員が作成し、常に改善を加え、生徒や保護者と共有し、理解を深める活動をしていること。

（3）学校経営の状況

①学校の管理運営等の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
教育目標等の設定・実施	教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか	A	A	A	教育目標が生徒・保護者に理解され、目標達成に向けた効果的な取組による成果が顕著に現れている
		B	B	B	学校は生徒・保護者に教育目標を周知し、教育目標の見直しや改善に意欲的に取り組んでいる
		C	C	C	目標達成に向けた取組があまり行われず、教育目標が生徒・保護者にあまり浸透していない
組織運営及び教職員研修	教職員が意欲的に業務に取り組める組織であるか。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	A	A	A	情報共有が徹底され、様々な問題に対して迅速に対処している協力関係がある。また、学校は常に教職員の研鑽に努めている
		B	B	B	一人ひとりの教職員は意欲的に業務に取り組んでいる。また、様々な研修によって教職員の力量が向上している
		C	C	C	教職員組織の見直しが滞っている。また、教職員の力量向上のための研修があまり行われていない

所見

【教育目標等の設定・実施】

- ・理念や目標、教育方針等の上位概念の理解は、教育のシステムがそれに基づいて構築されている事を考えると教育の根幹であり、それを意識することで正しい方向を見失わないで教育を進めることができるといえる。これらの項目は、評価集計表の職員学校評価や保護者用学校評価等が高いことから、あらゆる機会をとおして教員・生徒・保護者等に説明し理解促進に努めていることが分かる。

- ・2つの基本的な教育理念（「あたりまえのことをあたりまえに・・・」、「物事を正しく判断し、他人に迷惑をかけない」）から、今日的課題も包含した3つの学校目標（「自ら学び、熱心に学習・・・」、「豊かな心と健やかな体・・・、他人を思いやる・・・」、「社会の一員として・・・国際社会の発展に・・・」）を設定している。この教育目標について、保護者に対しては、学校説明会、新入生保護者説明会、PTA 総会、学年保護者会、学級懇談会などの機会に、生徒に対しては、全校集会、学年集会、ホームルームなどで、教育目標とその意味について周知を図っている。教職員については、教育目標とそれにもとづく具体的な教育方針について、諸会議の他、随時確認し認識の共有を図っている。教育理念・教育目標にかかわる教職員の自己評価は極めて高く、保護者、生徒の自己評価も肯定的見解が80%を超えている。学校は、現状をさらに向上させようと検討を継続している。
- ・教育理念を、校長先生が折に触れお話をされている。難しい事が沢山あるより、シンプルなわかりやすい文言を常に頭の片隅に置いておける東高校の理念は、東高校の特色にもなる。

【組織運営】

- ・組織運営については、平成26年度に教員組織および各分掌にかかわる組織改編を行い、各分掌の整理と役割の明確化が実現できた。さらに、諸会議の計画的な開催、職員会議の案件整理、効率化のための運営委員会の設置など、様々な改善が行われ、学年団、分掌、委員会相互の連携が図られている。
- ・学年教職員の情報共有が良くできている。学校全体の教育活動を支えるためには、学年でしっかりと共通理解を図り、各学級に伝達・指導がされるものと思う。学年内の情報共有、検討はとても大切で、そこで教職員の育成も図れるものとする。時間確保等大変だが、是非継続してチームをしっかりと作って頂くことが大切である。

【教職員研修】

- ・教職員一人ひとりが授業に熱心に取り組んでいることは、授業評価集計の「先生は生徒に学力を身につけさせようと授業に熱心に取り組んでいる」等の項目について、生徒からの評価が高いことから判断ができる。しかし、平成27年度職員用学校評価の集計の研究・研修項目「教職員が互いに研鑽し力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている」への評価は満足のものとなっていない。教員の熱心さを無駄にせず最大限活かすためにも、研究・研修体制をはじめ教育環境の整備は欠かせないであろう。今後の改善を期待したい。また、生徒用学校評価の集計で「避難経路」を分かっていない生徒が半分くらいいる。地震等へ備えるため対策が至急必要である。
- ・教職員研修については、年次研修はもとより、授業改善プログラムによる研究授業の実施、教科ごとの授業研究等を実施し、授業内容や授業方法の改善に向けた努力がなされている。しかし、時間的な関係もあり研修については、校内研修の計画的な実施を推進するなどの課題も見出されており、より望ましい研修体制に向けた検討の必要性が認識されている。

②保護者・地域等との連携協力の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
保護者・地域等との連携協力	学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか	A	A	A	保護者及び地域には常に教育活動の情報提供が行われ、円滑な協力関係が築かれている
		B	B	B	保護者及び地域に教育活動についての理解が得られ、連携協力して学校が運営されている
		C	C	C	保護者及び地域に教育活動について情報提供があまり行われず、連携に大きな課題がある

所見

- 保護者との連携協力については、学年別保護者会、個人面談、授業見学等の機会を設けて緊密化を図っている。PTA活動は、総会、理事会の開催の他、厚生、広報、成人教育の各委員会活動などの形で進められている。また、海外帰国生徒のケアのための「帰国生徒保護者会」、部活動支援のための「部活動振興会」が設けられ、効果を上げている。

地域等との連携協力については、学校としての連携活動は、「社会体験活動委員会」が統括して行っているほか、各部活動単位でも、小学生への指導、地域イベントへの参加・協力、清掃活動への参加など、積極的な取組が行われている。また、生徒が熱心に取り組んでいる体育祭や東高祭についての周知活動も行われている。しかしながら、平成27年度資料によると、学校の地域への貢献や配慮に関する地域社会の評価はまだ十分に高いとはいえない状態にある（肯定意見50～60%）。これは、平成26年度に較べると向上しており、これまでの学校の努力の成果がうかがわれるところから、周知活動等の努力を引き続き継続していくことで、より望ましい状態が実現できると考えられる。
- 年2回の「PTA便り」の発行、各委員会による定期的な活動、研修会等の実施と保護者との連携は図られている。特に、帰国生徒保護会等の設置による海外帰国生徒への手厚い対応が光っている。しかし、対外的な情報発信の中心となるホームページについては、頻繁な更新ができないでいる。各教職員が日々の仕事の一つとしてホームページへの情報発信の種をホームページ担当責任者に頻繁に送るなどの仕組みを構築するなどして改善を図ることが望ましい。また、突発災害（地震等）への予期せぬ問題への対応（避難場所ではないのに避難場所になってしまうような事態）や地域トラブル（バスの乗車のマナー問題等）についても対応は大変ではあるが、今後これらの問題は現実にかかる可能性があること、もっと大きくなって社会問題化していく可能性があることから、学校（教職員・生徒）と地域との協力関係をもっと深めて理解を求めていく必要がある。そのためにもホームページによる情報発信の改善は不可欠である。
- ホームページもわかりやすく、PTA広報誌は、大変素敵で楽しく拝見した。作成された方々の思いがとても強く感じられる。
- 保護者・地域の方々との連携も大変良く、素晴らしい実践が展開されている事がよくわかる。
- 生徒のバス乗車について、地域からクレームがあると聞いた。きっと多くの学校が同様な課題を抱えているのだろうと思う。反面、小学校に部活指導に行ったり、地域行事にボランティア参加されている事もうかがえた。それであれば、生徒のボランティア活動をより地域に見える形で広報することもあって良いのではないかと思い、その点でBとさせていただいた。全体の内容が特に課題があるということではない。（とても立派な生徒達なので、ホームページ・学校案内等に生徒の生の声を載せて、学校を紹介させても良いと思う）

(4) 総合所見

【教育理念・教育方針】

- ・「あたりまえのことをあたりまえに出来る人間」、「物事を正しく判断し、他人に迷惑をかけない人間」という簡潔な教育理念のもと、それを今日の課題と関連づけ具体化した教育目標「自ら学び、熱心に学習する生徒の育成」、「豊かな心と健やかな体を育み、他人を思いやる生徒の育成」、「社会の一員として自ら役割を果たすとともに、国際社会の発展に貢献できる生徒の育成」として掲げる教育方針は、現時点で極めてわかりやすいものであるとともに、将来的にも、その時点に応じた教育目標を柔軟に設定できる方式として高く評価できる。

この教育方針は、さらに簡潔に、「学習活動と特別活動・部活動」と表現されることがあるが、これは、生徒にとってのみならず、保護者や将来志願してくる可能性のある中学生やその保護者にも、容易に理解しイメージしやすい言葉（キャッチフレーズ）である。

東高校では、これらの簡潔な目標を、実に念入りな教育活動で裏付けている。生徒一人ひとりにあった履修計画の立案支援、教科学習のための研修や授業研究、学校行事や部活動への支援体制、さらには、これらの活動を効率化するための教員組織の整備などがそれである。

グローバル人材育成のための、ESDの視点にたった教育の展開は、従来から重視してきた国際理解教育の幅と深みを増すことに有効であるばかりでなく、教科・領域を超えた学校教育全体をとおしての生徒の人間育成に貢献するところが大きいと判断できる。ESDの視点に立った教育では、以下のような能力・資質の育成が重視されるからである。① 批判的に考える力、② 未来像を予測して計画を立てる力、③ 多面的・総合的に考える力、④ コミュニケーションを行う力、⑤ 他者と協力する力、⑥ つながりを尊重する態度、⑦ 進んで参加する態度。

- ・英語教育を柱にして、海外留学・受け入れ実績を重ね、将来的に姉妹校の実現に向けた取組を期待する。
- ・この学校では進学のためだけのただ単なるガリ勉の生徒ではなく、部活動を始め様々なことに責任と自主性を持ってチャレンジしていく骨太の生徒が育成されているように思える。
- ・ESD、ATOP、ユネスコスクール等に取り組むことで、生徒の自主性が育ち、東高校の教育理念や横浜市教育振興基本計画のグローバル人材の育成が進んでいくことと思うが、生徒の将来はグローバルな競争の中にあることを考えると、OECDの教育レポート等に目を通すなど、世界の教育の行方を広い視野で見えていく必要がある。生徒が将来において円滑で豊かな生活を享受できるように、東高校の教育の改善が進んでいくことを期待したい。
- ・高校生のエネルギーを直接拝見し、感じ取ることができた。このように立派な若者を育てている東高校教職員の皆様のご指導に敬意を表する。

【環境整備】

- ・業務の効率化等のためにグループウェア等の導入活用を提案する。
より良い教育を実現するためには多くの人手と時間を必要とする。現在、世間では部活動等の労働過多が話題になっているが、労基法を遵守し、かつ生産性を上げて問題を解決していく必要がある。そのためには、業務の効率化、年間変形労働制の採用等による業務の平準化といったことが不可欠である。しかし、それだけでは限界があり壁につきあたる。人手を増やすことも解決策の一つだが、コストパフォーマンスの壁につきあたることも考えられる。生産性を高めていくためにはグループウェア等の文明の利器を使い、情報の共有化や透明化を進め、チームとして知恵を集め協力して行動できる環境整備をする必要がある。

横浜市立横浜商業高等学校

(1) 第2期横浜市教育振興基本計画（施策6 魅力ある高校教育の推進）の進捗状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
「次代を担うグローバル人材の育成」のための取組を推進しているか	A	A	/	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	/	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	/	重点施策の取組があまり行われていない
「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか	A	A	/	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	/	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	/	重点施策の取組があまり行われていない
「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」のための取組を推進しているか	A	A	/	重点施策の取組が目標以上に進んでいる
	B	B	/	重点施策の取組が目標をほぼ達成している
	C	C	/	重点施策の取組があまり行われていない

所見

【グローバル人材の育成】

- ・姉妹校提携によるお互いの学校訪問や、大学・予備校との連携を活かした取組、海外研修プログラムなどが実施され、目標に向けて着実に推進していると思われる。

【特色ある高校づくり】

- ・一つの学校の中に、商業科、スポーツマネジメント科、国際学科と、全くタイプの違う学科があり、学校経営の大変さを感じたが、それぞれの特徴を伸ばす取組を実践していることが、学校の魅力につながっていると感じた。今後もさらなる取組に期待したい。
- ・横浜商業高校の歴史を踏まえ、強みを生かす形で、積極的に教育改革を推進している。
- ・特に新たなビジネス教育への対応、世界の人々と共生できる力を育成する国際理解教育の推進、伝統を生かして、スポーツマネジメントの強化などの特色ある改革を着実に推進している。
- ・教育改革の内容と成果を受験生や保護者、市民へもわかりやすく広報していくことが期待される。

【生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実】

- ・専門教育の推進として、検定の取得に成果を上げている。
- ・資格の取得、コンテストへの参加やグランプリ等への入賞により、生徒が自分に自信を持ち、進路実現へ向け大きな力になるとと思われる。

(2) 教育活動の状況

① 教科等の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
教科指導	生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか	A	A	/	学校の目標達成に向け、教科指導が改善され、授業力が大幅に向上している
		B	B	/	学校の目標達成に向けた教科指導や授業力向上の取組が行われ、授業力が向上している
		C	C	/	複数の教科で教科指導の課題が指摘されているが、授業改善の取組があまり行われていない

所見

【教科指導】

- 多様な教育課程を円滑に運営し、いっそう生徒の希望に合った教育活動を推進する必要がある。
- 恵まれた施設や人員配置を活かし生徒の指導に当たっていることが、資格取得者の増加や進学希望の意識に表れていると感じた。
- すき間時間の有効利用や、家庭学習の習慣化、補習など、教科指導に熱心に取り組んでいる。

【授業改善】

- 教職員の学校評価で、校内の研究・研修体制が整えられているかの設問に対する評価が低いところが課題かと思われるが、教師同士が自分の空いた時間を利用して他の教師の授業見学をするなど、授業改善に取り組む姿勢は評価できる。
- 多くの教員が積極的に授業改善に取り組んでおり、組織としても、授業方法・授業内容の工夫と教科指導力の向上に取り組んでいる様子がうかがえる。ただし、各教科や教員によって、ややばらつきがあるのが気になる。

② 生徒の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
進路指導	進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか	A	A	/	どの生徒も進路の高い目標を設定し、自ら目標達成に向けた進路計画の立案や実践を行っている
		B	B	/	生徒は学校からの進路情報を十分に理解し、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる
		C	C	/	進路指導に対して不安を訴える生徒が大勢いるにもかかわらず、進路指導の改善があまり行われていない

所見

- 進路指導に関しては、着実な成果を上げている。生徒の個性や適性を見極め、より高い目標に向かって努力するなどの指導も積極的に進めて欲しい。

- ・就職については、例年早い時期での内定が実現しており、指導の充実と生徒の真摯な取組が感じられる。
- ・生徒に配布する進路の手引きには、調査書などの必要な提出書類も織り込まれており、充実していると感じた。
- ・商業の専門性を活かした進路指導がなされている。
- ・一般受験を希望する生徒や、国公立大学や難関私立大学を希望する生徒も増えているということだったので、その指導充実への取組に期待する。
- ・生徒へのインタビューなどから、本校への満足度が高く、生徒指導、進路指導などが的確に実施されていることがうかがえる。

(3) 学校経営の状況

① 保護者・地域等との連携協力の状況

項目	観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
保護者・地域等との連携協力	学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか	A	A	/	保護者及び地域には常に教育活動の情報提供が行われ、円滑な協力関係が築かれている
		B	B	/	保護者及び地域に教育活動についての理解が得られ、連携協力して学校が運営されている
		C	C	/	保護者及び地域に教育活動について情報提供があまり行われず、連携に大きな課題がある
学校に関する情報公開	学校便りや学校ホームページ等を通じて適切に情報を公開しているか	A	A	/	保護者・地域へ学校の情報を積極的に発信し、保護者及び地域が必要な最新の情報を公開するよう組織的に努めている
		B	B	/	保護者・地域へ学校の情報を発信し、説明責任を果たしている
		C	C	/	学校ホームページの更新が滞っているなど学校の情報がうまく発信できておらず、保護者・地域に学校の教育活動があまり理解されていない

所見

【保護者・地域との連携】

- ・入学前から本校の教育に関心と期待を寄せている保護者が多いようで、多くの面でその期待に応じており、保護者や地域住民等との連携協力も円滑に行われているように見受けられる。
- ・PTA 活動との連携も、様々な活動が学校と PTA の協力のもと、活発にスムーズに行われている様子が見えがえる。
- ・おやじの会が、環境整備活動や、他校 PTA と連携した大岡川沿い清掃活動、教員との交流ソフトボール大会など、活発な活動をしていることに驚くとともに、父親が学校にここまで関わることで、保護者が学校に寄せる関心と信頼を感じる。
- ・「わがまちの学校づくり推進会議」や、「Y 校カップ GOMI 拾い大会」「英語教室」「パソコン教室」を通じた交流、地域のイベントへの参加など、地域と共に行う活動が多々あること、またその活動の様子からも、学校と地域との協力体制の強さが感じられる。

- ・地域と連携した活動も多く、まさに地域に密着し、受け入れられている学校と感じた。

【情報公開】

- ・ホームページは非常になじみやすく、関係者の閲覧を満足させるような情報が数多く発信されている。若干、部活動などに傾斜した情報が多いように思うが、今後は、教育活動の様子を多角的に広報し、教育活動の充実ぶりをさらに PR できる画面づくりに期待する。
- ・デザインの専門家に依頼して一新したというホームページ、見やすいと思った。今後も Web ページの充実を図るようなので期待したい。

(4) 総合所見

【高校改革】

- ・魅力ある高校教育の推進に関わった学科の再編が徐々に軌道に乗り始めており、教育活動の成果も上がってきているように思う。検定結果や資格取得、部活動の成果など、視覚化しやすいものについては、わかりやすくまとめるなどの工夫をさらに推進して欲しい。他方で、国際性を育てるといった、資質・能力的な面では、実績の見える化を工夫して、生徒自身がさらに自己有用感を高め、自信を持って次のステップに進めるような指導も必要かと思う。
- ・横浜市教育委員会が推進する高校改革に積極的に取組、着実な成果を上げているものと認められるが、今後は、社会の変化に着実に対応し、時代を先進的に担う人間の育成を目指して、今一步、学校改革、特に授業改善の取組を強力に推進して欲しいと強く期待する。
- ・諸活動に対する自己評価の手法に関しては、アンケートだけに依存するのではなく、客観的なデータの収集と分析、生徒による評価の活用、保護者等の学校関係者の生の声に耳を傾けるなど、意見や要望から見た評価の充実にも努めて欲しい。

【職員組織・研修】

- ・学校教育目標や学校経営方針が教職員の間で共通理解されており、各人が何をなすべきかという組織的な動きがだいぶ浸透しているように見受けられた。
- ・組織運営や研修の状況については、自己評価や意識レベルでの実態把握だけでなく、ある程度客観的なデータの収集に努めるなど、自己評価の質的向上が望まれる。たとえば、会議などでの意思決定が具体的にどのように改善されたのか、多忙化などの解消に貢献できているのか、各人が1年間、具体的にどのような研修を行ったのかなどという実証的な分析を充実させるべきである。

【進路】

- ・今の時代、高校卒業後の進路はほぼ進学だが、横浜商業高校のように専門性の高い学校もやはりほとんど進学なのだと知った。今後益々高まる進学のニーズに応じていくことが必要になっていくだろうし、中学生が高校を選ぶ際の大きな要因のひとつになると思う。
- ・生徒の学校生活や家庭での健康管理などに対して、適切な指導が行われており、保護者等からの信頼も高い。特にスポーツ系の生徒に対しては、日頃からの保健・安全指導をさらに徹底し、深刻なけがなどに陥らないような指導が重要である。

【部活動】

- ・部活動加入率が高く、部活と学習を両立させることが重要だが、部活を行わない日を取り入れて体調管理等を行う部活もあり、工夫をしている。
- ・部活動の活性化は、生徒だけでなく、保護者や諸先輩たちが大いに期待している。教職員の加重負担にならず、生徒の自主性がある程度奨励されるように、いっそうの取組改善が望まれる。

【危機管理】

- ・危機管理に関しては、生徒の意識も高く、防災計画や防犯計画も周知されており、教職員の危機意識も高いものを感じた。

【予算】

- ・諸規定を遵守した学校経理、施設設備の完全管理と適正な活用などは、特に問題点もなく運用されているように見受けられた。公費の執行に関して、すべての職員が意識を高め、公平で公正な無駄のない予算編成と執行を今後も強く求めたい。

【学校の魅力】

- ・伝統や歴史を感じさせる校舎のエントランス、広々とした講堂、PC の充実した LL 教室や情報処理室、総合実践室、広い体育棟、マシンなどの施設の整ったトレーニングルームやスポーツセンター、教育支援センター等の大変充実した施設と、AET と 7 人の外国人講師、トレーナーなどの厚い人員配置が大きな魅力のひとつである。
- ・横浜商業高校の生徒であることに誇りを感じている生徒が 9 割を超えているが、これは学校が愛されているということでもとても素晴らしいことだと思う。
- ・昼食を一緒に食べた生徒たちや学校内で会った生徒たちが、生き生きとしていて、学校生活が充実していることがうかがえた。
- ・話をした生徒たちが、自分の将来のビジョンをはっきり持ち、進路先を決めていることに感心し、学校のしっかりとした指導も感じられた。